

情報セキュリティ教育事業者連絡会発足について

株式会社ラック／(ISC)2
与儀 大輔

この度、情報セキュリティ教育事業者連絡会の代表を拝命致しました、与儀と申します。

産学官が連係した情報セキュリティの人材育成分野での初の試みでもあります連絡会についてご紹介させていただきます。

発足までの経緯

私は3年ほど前から(ISC)2のセールスマネージャーとして、CISSPの日本での普及推進を行っております。現在は私自身もCISSPですが、もともとは営業職でありまして、数年前に自身のスキルアップの為に資格を取得しようと考えたことが情報セキュリティ教育分野との関係の始まりです。当時はセキュリティポリシー構築の必要性が数多くのセミナーで連呼されており、同時に企業においてのISMS認証の取得が潮流になりつつありました。自身の営業の幅を広げる意味で上司にISMS審査員研修の受講を起案しましたが、営業職の私に資格取得は無意味と、あえなく却下されてしまいました。そこで上司を説得するために、まずは自費で何か資格を取得してから再度交渉しようと思い立ち、2003年にNTTコミュニケーションズさんが展開していた「.com.Master」にチャレンジし、何とか合格することが出来ました。翌2004年にその合格証を持って再度上司と交渉をし、渋々ながらISMS審査員研修の受講を承認してもらうことが出来ました。数日間の合宿形式でのセミナー受講とロールプレイ、試験、申請等を経てISMS審査員補の認定証がJIPDECから届きました。合格後にISMS審査委員補と名刺に記載するとお客様の反応に変化が見られたのです。「与儀さんはISMSの専門家ですね」「ISMSの観点からセキュリティ強化をする為に是非教えて下さい」など、通常の営業マンとは異なる信頼を頂きまして、ISMS認証取得コンサルから製品導入まで一気通貫でお客様に提案出来る様になりました。資格の取得を通して自分が御用聞きからパートナーに、営業マンからコンサルタントに変わった事を実感したのです。その後の業務を通じて、欧米ではセキュリ

ティビジネスをする際にCISSPやCISAという資格を取得するのが一般的であるとの情報を入手して2005年に(ISC)2が実施している「CISSP」にチャレンジしたのです。ISMS審査員資格取得後の営業実績が効いたのか、このとき上司は特に反対せず起案を承認してくれました。初回は自分を過信してほとんど勉強をせずに受験したら不合格、2ヶ月猛勉強をして「CISSP」に合格したときは本当に嬉しかった事を覚えています。私のキャリアとしてISMSでマネジメントシステムを理解している、CISSPで情報セキュリティのプロフェッショナルという客観的な評価を獲得したことにより、更に活動領域が拡大していきました。その後お客様のセキュリティ事業立ち上げ等のコンサルなども行っていたときに、(ISC)2からセールスマネージャーとして日本でCISSPを普及、推進を支援して欲しいとの依頼を受け現在に至ります。振り返ってみますと業務経歴何年ではなく、お客様から客観的な評価を得られる資格を取得した事は自身にとって非常に有意義であったと思います。

(ISC)2のセールスマネージャーとして、日本全国を駆け回り「CISSP」を普及する活動をしておりますと、情報セキュリティ教育に関わる多くの皆様とお話をする機会を得ました。そこで感じたことは各資格運営団体の個別活動による「情報発信と連携体制の不足」です。

時を同じくして、政府の情報セキュリティ政策会議の「第1次情報セキュリティ基本計画」、「セキュアジャパン2007」、「人材育成・資格制度体系化専門委員会報告書」などにおいて人材育成の重要性と基本方針が示された時期でもありました。そこで、情報セキュリティ業界で大変お世話になっている方々に「業界横断的な協力体制構築の必要性」についてご相談したのです。お忙しい中時間を取って意見交換させて頂いた方々は、本連絡会の発起人として名を連ねて頂いた、日本ユニシスの長谷川長一氏、NRIセキュアテクノロジーズの関取嘉浩氏、SEA/Jの小林佑光氏、JNSA安田直義氏、また政府の考える人材育成等については内閣官房情報セキュリティセン

ターの川野真稔氏、横断的な協力体制構築等について多くの知見をお持ちのDIT/JNSA事務局長の下村正洋氏です。それ以外にもご支援を賜りました多数の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

その後「準備会」を発足させ数ヶ月に渡り意見交換を行い、関係機関及び組織にも参加を要請し2007年10月に「情報セキュリティ教育事業者連絡会」が正式発足に至りました。

ここからは情報セキュリティ教育事業者連絡会の概要について、ご説明致します。

1. 設立の背景と現状の考察

日々進化を続け利用人口も増加を続けるIT社会の中で、我々の生活においてもITは重要なインフラとしての役目を担っていると言えます。

情報セキュリティ分野においてはポリシー作成やシステムの導入、運用管理などの業務のみならず内部統制やCSR、コンプライアンスなど組織としての対応を迫られている多くの課題があります。しかしながら山積した諸問題を解決するには知識と経験が必要であるにも関わらず、その経験値を持った人材は非常に少なく更には経験値を図る基準も不明確であるという現状があります。

情報セキュリティ人材の不足は国も認識しており、政府の情報セキュリティ政策会議の「第1次情報セキュリティ基本計画」、「セキュアジャパン2007」、「人材育成・資格制度体系化専門委員会報告書」などにおいて人材育成の重要性と基本方針が示されています。

このような状況の中で情報セキュリティ人材の必要性は理解が徐々に進みつつありますが、自組織に合わせた人材育成をどのように行えば良いかという方法に関しては情報が不足していると言えるのではないのでしょうか。

また、情報セキュリティ教育の現場に目を移して考えてみますと、様々なセミナーや資格が立ち上がって来ています。しかしながら人材育成をしたい

企業や組織サイドから見ると一体何を指標に情報セキュリティ人材を育成して良いのかが分からないという現実があります。教育や資格を提供している我々も提供資格の位置付けやキャリアパス形成においても共通した認識や協力体制が確立出来ていないのが現状ではないでしょうか。

そこで本年2月末に産学官連携の初の試みである「情報セキュリティ人材育成セミナーin Tokyo」を開催致しました。200名を超える参加者より「国や高等教育機関の考えと情報セキュリティ教育や資格に関して1日で学べる大変有意義なセミナーだった」と多数の声が寄せられました。

本セミナーを通して得た事は各団体が個別活動を行うことも大切ですが、情報セキュリティ人材育成に関わる我々が連携して情報提供等を行う事が求められているということです。

2. 連絡会概要

●名称及びロゴマーク

和 文：情報セキュリティ教育事業者連絡会

英 文：Information Security Education Providers Association

略 称：ISEPA

URL： <http://www.jnsa.org/isepa/index.html>



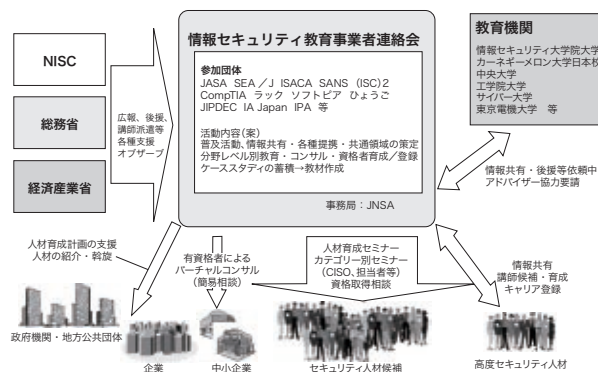
情報セキュリティを確保する為に最後の盾となるのは「人」です。人材育成の重要さに思いを込めてロゴを決定しました。

(*1) IT Pro「Winny ネットワークはやっぱ真っ黒、NTT コミュニケーションズの小山氏に聞く」
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Interview/20070413/268234/>

●目的

- ◎情報セキュリティ人材育成を通して、より豊かな情報社会に貢献することを目的とする
- ◎情報セキュリティ教育事業者が協業することにより、情報セキュリティ人材育成に関わる情報を広く社会に発信するとともに、人材育成の拡大に向けた様々な取組みを推進する
- ◎教育機関とも連携し有益なコンテンツの共同利用などを検討する

以下は活動イメージです。



●構成

連絡会は下記のメンバーより構成されます。

連絡会会員：

基本的に独自の教育コンテンツを有し事業を行っている組織を対象とします。

連絡会運営に際し必要な実務を行う担当者をアサイン出来る事とします。

イベントなど特別な費用が発生する場合は参加団体で応分の負担する事とします。

アドバイザー：

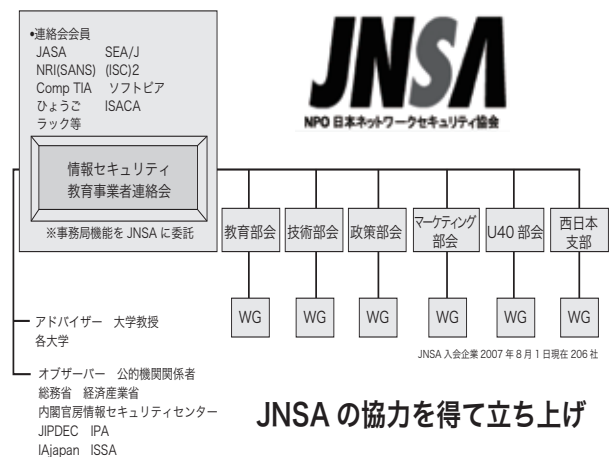
原則として大学等の教育従事者(教授等)であり本連絡会の趣旨にご賛同頂き、適宜アドバイスを頂ける方とします。

オブザーバー：

原則として公的機関関係者・任意団体関係者であり本連絡会の趣旨にご賛同頂き、適宜アドバイスを頂ける方とします。

●連絡会の設置場所

連絡会は当初日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)内の組織として発足します。



JNSA の協力を得て立ち上げ

●参加方法

JNSAに入会することとします。

入会方法については、JNSA会員規則に準じます。

●年会費などの費用

JNSAの規則に準じますが、要約は下記の通りです。

＊年会費24万円、年度途中入会は年会費の残月数の月割り金額(月額2万円換算)

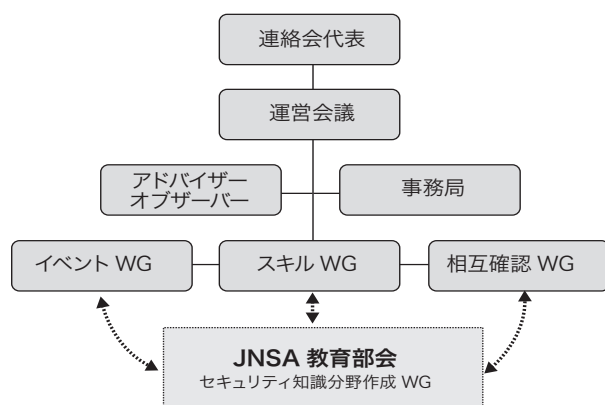
＊参加組織の事情等により会費負担については考慮されます

なお、イベントなど特別な費用が発生する場合は参加団体で応分の負担が発生する場合があります。

3. 当面の体制とスケジュール

●組織の形態

体制は下記の通り



連絡会代表：

対外的に連絡会の代表として機能し、かつ、運営会議の議長を担います。

株式会社ラック/(ISC)2 Japan 与儀大輔

運営会議：

連絡会運営に関わる諸問題についての意思決定の場とし、月次の定例会を行います。

構成は連絡会会員が運営委員として会議に参加するものとします。

連絡会に関わる重要事案は全て運営会議にて方向を検討し決定するものとします。

事務局：

JNSA事務局が担当します。

ワーキンググループ(WG)：

連絡会で必要とされる検討や成果物作成等については会員、アドバイザー、オブザーバーによりWGを発足しテーマに基づき随時活動を行うものとします。

当初は以下3つのWGから活動をスタートし、必要に応じてWGは増設します。

各WGでは参加者を募集中です。

ISEPA事務局 (E-Mail: isepa-info@jnsa.org) まで、お問合せください。

イベントWG：

リーダー：杉本(ISC)2 Japan

サブリーダー：吉村CompTIA

●共同普及啓発事業(セミナー、イベント、Web、出版等)

○イベントは年間開催3回～4回を予定

○各組織の資格保有者数の把握及びWeb等への掲載による公開も検討

スキルWG：

リーダー：衣川(ISC)2 Japan

サブリーダー：長谷川JNSA/JASA

●人材像の検討

○利用者から見て出来る限りダブらず、わかりやすい全体体系の整理

○キャリアパスの提示(それぞれの教育プログラムの位置関係の提示)

○共通知識基盤の設計と共有(広がりと深さの統一)

相互認証WG：

リーダー：関取NRI(SANS)

サブリーダー：小川ISACA

●相互認証

○資格継続プログラムの相互乗り入れ

○資格取得時のショートカット受講

○講師育成及び共有の検討

○大学等教育機関との連携及びアドバイザー要請

●教育プログラムの品質の維持

○品質の定義とその判定方法の検討

○判定の実施

○時代の変化に対応した要求されるコンテンツの検討

●主なスケジュール

10月1日 正式発足

11月14日 設立記念イベント「2007 情報セキュリティ人材育成シンポジウム 秋」開催

<http://www.jnsa.org/seminar/2007/071114/>

上記より講演資料のダウンロードが可能です。

4. 参加組織

会員
(ISC)2 Japan
ISACA東京支部
NPO 日本セキュリティ監査協会(JASA)
NRIセキュアテクノロジーズ株式会社 (SANS JAPAN事務局)
NPO 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)
株式会社ラック
CompTIA Japan
(財)ひょうご情報教育機構 (カーネギーメロン大学日本校)
(財)ソフトピアジャパン
SEA/J (セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン)
リコー・ヒューマン・クリエイツ株式会社
株式会社ケーケーシー情報システム
オブザーバー
内閣官房情報セキュリティセンター
総務省 情報通信政策局
経済産業省 商務情報政策局
独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)
(財)日本情報処理開発協会(JIPDEC)
(財)インターネット協会(IAJapan)
ISSA(Information Systems Security Association)東京支部
アドバイザー
東京電機大学 安田浩教授(予定)
北陸先端科学技術大学院大学 篠田教授(予定)
カーネギーメロン大学日本校 武田教授
サイバー大学 安田教授

5. おわりに

本連絡会の設立に関しては、内閣官房情報セキュリティセンター・経済産業省・総務省へ説明に出向き、ご理解を頂くと共にご協力頂ける事になりました。

内閣官房情報セキュリティセンター発行の「人材育成・資格制度体系化専門委員会報告書」のサブタイトルには「人は城、人は石垣、人は堀」と、いかに人材が重要であるか明記されており、情報セキュリティ人材育成は企業や組織の活動において必要不可欠な重要課題であり国策としても大変重要な位置付けにあることはご理解頂いていると思います。連絡会の設立趣旨をご理解頂きご参加、ご支援を賜りますようお願い致します。

「参考情報」

「情報セキュリティ人材育成セミナーin Tokyo」
<http://www.jasa.jp/seminar/edu-seminar070227.html>

「第1次情報セキュリティ基本計画」
http://www.nisc.go.jp/active/kihon/ts/bpc01_a.html

「セキュアジャパン2007」
http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/sjf_2007.pdf

「人材育成・資格制度体系化専門委員会報告書」
http://www.nisc.go.jp/conference/seisaku/training/common/pdf/training_report_final.pdf